

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第60号 発行日2008年11月25日

Contents

本保・観光庁長官講演(札幌フォーラム)	1
札幌フォーラムの内容(本保、須田、前田)	2
神戸フォーラムの内容(須野原、幡野)	3
霞が関情報(黒田)、山之内氏追悼	4
霞が関情報(本保)、観光庁に期待する	5
観光人国記(西尾函館市長、丸仙女将)	6
立教支部通信、世界遺産物語	7
海王丸航海記、旭山動物園	8
城下町と観光(岡山)、セミナー実施録	9
江戸城再建の会報告、停年オヤジの本	10
ゆめ牧場を外国人が訪問	11
NEWSPOT(観光庁)	12
観光立国の提言(寺田社長)、COLUMN	13
お得な情報(アガ、たるみず)	14
提言(寺前秀一)、イタリア通信	15
お天気の話(気温の低下)、編集後記	16



今年で11回目を迎える「はこだてクリスマスファンタジー」は函館の姉妹都市であるカナダ・ハリファックス市から寄贈された高さ20mのモミの木を、約5万個のイルミネーションで飾り付け、クリスマスツリーとして赤レンガ倉庫群の会場に浮かべます。バックは同市の象徴・函館山。
毎日の点灯式では、花火とともにツリーに灯りがともります。

巻頭言

本保・新観光庁長官が講演 第4回「観光立国フォーラムin札幌」で

11月5日、札幌のホテルで開かれた「観光立国フォーラムin札幌」(21世紀は大北海道圏の時代)で、本保芳明・初代観光庁長官が「観光立国と北海道観光の振興策」と題して講演した(要旨は2面)。約350人が集まり、会場は満杯となった。北海道新聞社が後援した。

このフォーラムは、今年で4回目。JAPAN NOW観光情報協会と北海道観光振興機構の共催。両主催者を代表して、松尾JN協会理事長と坂本会長が挨拶したあと、来賓の高橋はるみ・北海道知事が「21世紀は大北海道圏の時代という狙いの実現を目指し、観光立国日本の先兵となるよう頑張る」と力強く挨拶。引き続き、中田・札幌副市長、尾澤・北海道運輸局長が歓迎のあいさつ。

講師は、ほかに須田寛・東海旅客鉄道相談役、前田隆平・国土交通省航空局長。フォーラムのあと、講師を交え立食懇談会に移った。



10月には神戸でもフォーラム開催

10月3日、神戸市の商工会議所で開いた「観光・海事立国フォーラムin神戸2008」(JN協会と日本海事センター共催)は、須野原豊・国土交通省港湾局長、幡野保裕・郵船クルーズ専務、須田寛の3氏が講演(3Pに内容)。260人が参加した。

矢田・神戸市長らが来賓として挨拶。須田氏が中心になって作成した「産業観光100選」が無料で配布され、会員の大塚ベパレジから飲み物が寄贈された(札幌でも、同じものが配布された)。感謝。

JN協会、2009年の予定

JN協会は、2009年3月名古屋市でフォーラムを開催する。5月は通常総会、6月か8月には日本海事センターとの共催で、横浜市で開港150周年記念イベントを開く。さらに、高松市、富山県射水市、札幌市でもフォーラムを開く予定。

写真は、札幌市でのフォーラム会場風景



観光立国推進の決意を表明

道民には「世界の観光地」の心構えを訴える

道産子の本保・初代観光庁長官



11月5日、札幌市で開いた第4回「観光立国フォーラム in 札幌（21世紀は大北海道圏の時代）」で、

基調講演を行った本保芳明・初代観光庁長官（小樽市出身＝写真）は、次のように語った。

行政改革が進められている中で観光庁が新設されたということは、それだけ重い意味を持つ。観光が国家戦略となっているということだ。就任して何人かの知事に会ったが、異口同音に地域振興の柱は観光だと語っていた。定住人口が減る傾向にある中で、交流人口を増やすことが地域の活性化につながるということだ。

10月1日発足した観光庁は、2020年に海外からの観光客を2000万人にするとの大目標を掲げた。小泉前総理は「2010年に1000万人を」と言い、それはほぼ実現する見通しにある。しかし、そのあとの倍増は従来の施策の延長線上では実現できない。たとえばアジア、中でも中国からは今の94万人から600万人にしなければならぬのである。ビザの問題、入国管理のあり方、受け入れ態勢すべて、革命的な改善が必要になる。また、日本をよく知ってもらうための情報発信も欠かせない。旅行関係者は今、中国や韓国などアジア諸国へのアプローチに力を入れているが、これを全世界向けに拡充しなくてはならない。観光庁は、その先頭に立つ覚悟である。

11月末には「観光庁ビジョン」を発表する予定で準備を進めているが、5カ条の行動基準いわば観光憲法を作り、それに則って全力を挙げる。例えば、縦割り行政を超えスピード化を図る、積極的な情報発信を進める、などだ。

北海道に話を絞ってみよう。北海道の自然をはじめとする豊富な観光資源は、「世界有数の観光地」としてクローズアップされる可能性を秘めている。私は、日本では沖縄と北海道が、世界から人を呼び寄せることができる地域だと思っている。しかし、今のところ沖縄に比べ北海道の取り組みは、まだ弱いと思う。県民と道民の観光にかける意識に差があるのではないか。二次産業を核とした経済成長が停滞する方向にあるなかで、観光産業こそが今後のリーディング産業であり、北海道は日本観光の原動力として期待されているのである。

日本での地域間競争さらには国際競争に勝つために、北海道民挙げての努力を期待する。

新幹線開通に先駆け準備を！

須田寛・JR東海相談役

「北海道新幹線と観光による経済効果」との題で須田 寛・東海旅客鉄道相談役（JN中部支部長）は岡山と東北地方の例を挙げ、新幹線効果と地元の準備態勢づくりの重要性を強調した。

新幹線開通で、岡山周辺へ入り込む観光客が急増し、その後も高水準を維持している。それは、地元が倉敷はじめ周囲の観光資源を広域ルート化すること、四国も含めた連携体制を作って準備を進めた点に源がある。また、東北新幹線が走り始めて前年比2割以上の観光客の伸びを見せたのも、広域観光の考えを取り入れたからだ。

北海道新幹線は、7年後には函館へ延伸され、引き続き札幌へも伸びるだろう。日本の観光をリードできる要素をもつ北海道は、今から万全の準備を進めていただきたい。公共投資で地域間格差の是正を図る時代は終わった。これからは、観光推進が格差是正の切り札になる。それには、自助努力が不可欠なのだ。

私は、観光推進にはハード、ソフトとともに、情報ネットワークが重要だと考えている。世界各地と情報ネットをつなぎ、新幹線開通を機に「世界の北海道」を目指していただきたい。

新千歳空港をH A Bに育てよう

前田 隆平・国土交通省航空局長



日本には現在、97の空港がある。

静岡と百里（茨城県）が開港すれば99空港となる。国の方針としては、離島を除いて新しい空港は作らない。これからは、“空港整備”（新設）から既存空港の運営強化つまり機能の強化に施策の重

点が移る。

新千歳空港の機能強化についていえば、二つ申し上げる。一つは、霧対策。着陸時に深い霧に包まれていたら、引き返すか別の空港に向かうという実態が見られた。空港の着陸誘導設備の改善で、この壁を突き抜けるようにしていく。もう一つは、入国事務の機能アップだ。今はピーク時には1時間200人しか対応できていないが、国際ターミナルの機能を強化し500～600人を捌けるようにもっていく。国際観光客を呼び込むには、こうした改善が欠かせないのである。

もう一つ言えば、新千歳空港のH A B化だ。世界からここへ飛んできて、国内線に乗り換えて北海道内さらには日本各地に散らばっていく。国内各地から新千歳に来て、世界各地へ飛んでいく。新千歳空港に、これを可能にする機能を持たせ、各航空会社も利用しやすくする。そんな手だても考えたい。

神戸で観光・海事フォーラム開く

3人の講師が、提言と展望

JN協会と海事センターは10月3日、神戸市の商工会議所ホールで「観光・海事立国フォーラムin神戸2008」(国際観光・港湾都市 神戸の魅力を探る)を開催、260人が参加した。

JN協会の松尾理事長(海事センター会長)と神戸支部長の岩田弘三神戸商工会議所副会頭(右写真)の主催者挨拶のあと、来賓として矢田立郎神戸市長、田中護史神戸運輸監理部長が祝辞を述べた。



矢田市長(写真左)は「大震災14年目、観光の振興、港湾の充実、クルーズ誘致の3本柱で神戸の活性化に懸命に取り組んでおり、このフォーラムにも期待している」と述べた。

以下、この日のフォーラムの要旨。

港湾は観光に大いに役立つ

国土交通省港湾局長 須野原 豊氏

4つの視点で港湾政策を進めている。国際競争力の強化、観光による港の活性化、CO削減はじめ環境対策、安全・安心の確保である。



神戸は、横浜と並ぶ国際港湾であり、広域観光の拠点としても大きな意味を持つ。また国の重要政策の一つである海外観光客の誘致という観点からも、神戸が果たすべき役割は大きい。

なかでも、クルーズに力を入れることが大切。いま世界のクルーズ人口は1600万人と言われているが日本は1%強の18万人にすぎず、横ばい状態が続いている。神戸には、豊かな自然、ウォーターフロント、中華街、兵庫運河、世界でも有数の夜景と、観光資源は豊富だ。神戸を起点とするクルーズには瀬戸内海という素晴らしい景観もある。問題は、こうした資源を活かすメニューが少ないことで、官民一体になってメニュー作りを急ぐべきだと思う。そうして日本人のクルーズ人口を増やすとともに、外国人観光客を招き入れること、それが神戸の振興と国策に沿う一石二鳥の効果をもたらすのではないだろうか。

新しい港湾都市・神戸の発展には、多様な観光資源の活用を考えたルートの設定や、京都や奈良、大阪さらには瀬戸内海も含んだ広域観光という視点が欠かせない。そして、それを可能にし、神戸の活性化を実現するには、あくまでも市民が主体となるとの意識が必要なのではないか。



クルーズの楽しさを知って!

郵船クルーズ専務 幡野 保裕氏



私は『飛鳥』の船長として8年間、世界一周を4回した。世界を回るのは気候が安定している春から夏までが多く、真夏は東北地方の祭り巡り、10月以降は企業や団体にチャーターされ、研修などに使われることが多い。

日本で世界クルーズが始まったのは、1996年からで、今は2代目の『飛鳥』(約5万t)が就航しており、これが日本最大の客船となっている。日本で現在クルーズ船は4隻しかないが世界でみると350隻、10万t以上の船が28隻。来年には22万tの『オアシス・オブ・ザ・シー』が就航する。まだまだ、日本のクルーズは緒に就いたばかりといえよう。

世界のクルーズ人口は1600万人といわれるが、日本人は17~20万人、日本のクルーズ経験者が少ないのは、いくつか原因がある。地中海やカリブ海のような適した海面がないこと、休みが取りにくい上にスロライフが苦手、FLY&SEA(飛行機で飛んで行き、そこでクルーズに)が発達していない、クルーズの選択肢が少ない、などが挙げられる。しかし、これからは年金生活者などクルーズに適したライフスタイルの人も増えるだろうし、これからだと思う。

クルーズは高い、とよく言われる。確かに100日間で200万円近い部屋もあるが、最低350万円クラスもある。部屋が狭いだけで、内容は変わらないし日数や食費などを考えると、決して高いとは言えないと思う。「揺れる」と嫌う人もいるが、スタビライザーが付いていて、ビールもこぼれない。

最後に、外国人クルーズ客を招くには、寄港する港の人たちのホスピタリティが重要な役割を担うので、神戸の皆さんもそのことを心に、クルーズ時代に対応していただきたい。

神戸で「新しい観光」を!

JR東海相談役 須田 寛氏

戦後、焼け野原になった街を山陽線の汽車から見たのが、神戸との初めての出会い。それから、見るたびに発展していく神戸に感心している。

これからの神戸の観光を考えるにあたって、都市観光と産業観光という観点から若干提言をしたい。日本有数の港湾を持つ神戸は、両方の要素を持っている。山から海まで狭かった街も、いまは沖に伸びて幅ができた。ベイエリアとして大阪湾ぞいの広域観光は有望で、湾沿いの都市と連携して相乗効果を求めて欲しい。

その中で、皆さんが議論して神戸という都市ブランドを作っていき「暫くぶりに来てみたら神戸は変わったな」と言われるようになって欲しい。

東京 霞が関発の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

観光立国を支える人たち

エコツーリズムを推進する

環境省自然環境局長

黒田大三郎（くろだ・だいざぶろう）氏



エコツーリズム推進法ができてこれから市町村で条例作り。各市町村の知恵比べとなりましょう。環境省が行っているエコツーリズムについては、この欄でも05年7月号で小野寺浩自然観光局長、06年8月号で小池百合子環境相に登場してもらいました。黒田さんで3人目です。ここに来ての新しい動きについてお話をお願いいたします。

エコツーリズムについては、08年6月に「エコツーリズム推進基本方針」が閣議決定しました。この閣議決定で07年6月にできた「エコツーリズム推進法」に具体的な方策ができたということです。この推進法は環境省、国土交通省、農林水産省、文部科学省の4省の共管になっていますが、環境省が中心になって進めていくことになっています。この基本方針ができて9月に東京で開かれた旅行博で、エコツーリズムについて出展したところ、すごく人が集まっていました。エコツーリズムについて一般の人に芽生えが出てきたとホッとしました。

- この法律について説明していただけませんか？

この法律は兵庫一区選出の盛山正仁議員（自民党）が中心になって作ったものです。エコツーリズムについては観光旅行者が自然観光資源について知識がある人から案内や助言を受け、資源の保護に配慮しながら、触れ合い、知識や理解を深める活動、と定義しています。この背景には環境問題への高まりと観光による踏み荒らしやごみ散乱などの悪影響が出ていることがあります。基本理念として4つのことを上げてます。まず 自然環境への配慮 観光振興への寄与 地域振興への寄与 観光教育への活用、です。この中で観光を重視しています。環境省が管理している国立公園は29あり、そのほか国定公園もあり、こうした自然を観光というビジネスに活用してもらおうということです。

- 観光から自然をどう守っていくかが大きな問題ですね。

このために地域で協議会を作ってもらいます。市町村が観光事業者、NPO、専門家、土地使用者、行政機関で構成されます。ここで条例を作ります。マナーとルールを作って資源を保護してもらおうことになります。例えば水芭蕉の柵が壊れれば直せばよい

が、海がめなどは光を当てると上陸してきません。こうしたことをルールにしてゆくのです。こうした手順はめんどくさいのですが、やらなくてはいけないことです。

- この法律ができたことで環境省としてどの程度の職員を増やしますか？

行政改革の時代だけに人はそれほど増やせません。エコツーリズム推進のために専門官と係長の二人を増員しました。環境省全員で1200人ですから少ないものです。環境を守ろうという意識が出てくれば人も増えてゆくものと期待しています。

（聞き手は阿部和義・JN協会理事）

黒田氏の『プロフィール』

東京都出身。千葉大園芸学部卒。1975年環境省入省。自然環境局野生動物課長、自然環境計画課長などを経て、大臣官房審議官。08年7月から現職。

ロケットやリニアなど先端技術に挑戦

JR東の元会長 山之内秀一郎氏を追悼する

JR東日本の元会長で、宇宙航空研究開発機構の前理事長を務めた山之内秀一郎氏が今年8月死去され、10月初めに東京で行われたお別れ会に約1500人の参列者があり、国鉄改革、東北新幹線などの開業や日本の大型ロケット技術の開発に取り組んだ故人の功績を偲んだ。山之内氏はJR型リニアモーターカーの開発にも関与した。

平成12年には宇宙開発事業団（NASDA）理事長に就任し、信頼性確保を追求する方針のもとでH-Aロケットの打ち上げを実現させ「はやぶさ」「かぐや」などの宇宙探査機の打ち上げに成功して国際的にも高く評価された。米国航空宇宙局（NASA）から荣誉賞、昨年には政府から瑞宝重光章を受章している。

山之内氏は今年6月にブラジルのサンパウロで行われた日本人移民百周年記念のイベントに参加、印象に残った話のある雑誌に寄稿しているが、「サンパウロとリオデジャネイロの間に日本の新幹線に相当する高速鉄道を建設する計画が具体化している。（ブラジルは）ワールドカップが開かれる2014年までに完成させたいようだ」と述べている。

山之内氏は、私が「リニア中央新幹線」という本を出版したころ、JR東日本の副社長で、「おい、白澤君。君は実用化が可能だと書いているが、リニアは未知の先端技術が多く、実用化は難しいよ」といっていた。

しかしJR東海は2025年には自己資金5兆1000億円を投じてリニア中央新幹線の東京・名古屋間の実用化を決定し、工事を始めている。お別れ会で遺影を前に「山秀さん、リニアは実用化されますよ」と報告してきた。（白澤照雄）

東京 霞が関の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

数字で説明する東工大卒の初代の観光庁長官

10月に発足した観光庁の長官には旧運輸省出身の本保芳明（ほんぼ・よしあき）氏が就任した。本保長官は東工大卒で経済職で入省した変り種である。

11月4日に日本記者クラブでの講演でも数字とともに理工系の出身らしく合理的な話になった。本保長官は「初めての観光庁としての役割は地域の活性化とアジアの国の力と勢いを観光で取り込んでゆくことである。そのためには具体的な目標を定めなくてはいけないと言うことで、2020年に外国観光客を2000万人（07年は835万人）という数字を出しました」と話した。

引き続いて「小泉首相が観光立国宣言をした03年は国際観光客は7億人でした。それが10年には10億人になり、20年には16億人になる予測です。国際観光客は6割しか増えないのに、観光庁の目標は倍です。しかし、日本がおかれた東アジアはこれから伸びるところであり、倍増は不可能ではありません。03年は521万人がビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）で07年（835万人）と6割増と増えています」と解説した。

観光予算についてもVJPの前は観光部の広告宣伝費は5億円しかありませんでした。韓国などはこの10倍のカネをかけていたので竹やりで戦争をしていたのと同じです。それが現在は国費だけで35億円の金があり、地方自治体のカネを入れると50億円もの宣伝費があります、と話した。

外国人観光客からの収入は07年は1兆4千億円がこれが20年には4兆3千億円になります。さらに観光収入に占める外国人からの収入割合は06年は6%が20年には16%になります。ドイツが17%、英国が18%なので、恥ずかしくないレベルになります、と胸を張る。

本保長官は「成果を上げることとスピードが必要だということで、10月から12月までが大事であると職員に言ってます。成果が出なければ駄目です」と決意を話していた。日本郵政公社の理事・専務観光執行役員の経験が生きるか？

丹羽晟・前JN協会理事長に「瑞宝重光章」

元海上保安庁長官の丹羽晟氏が、2008年秋の叙勲で「瑞宝重光章」を受けられた。

丹羽氏は、運輸省（国土交通省）を退いたあと、日本観光協会等の観光関連団体のトップを務め、JN協会の初代理事長でもあった。観光問題の第一人者の一人。いま日本空港ビルデングの相談役。

新「観光庁」の活動に期待する！

JN観光情報協会理事長 松尾 道彦



広く観光関係者において、これまで長きにわたって熱望していた政府の責任ある一元的な行政機関である「観光庁」が10月1日に創設されたことは、誠に喜ばしいことであり、今後のスピードある観光行政が展開されることが強く期待されます。

観光立国の推進が国家戦略として位置づけられることとなったのは、ごく最近のことである。「観光」は、過去においては、物見遊山的なものとして、産業界においては、さほど重視されてこなかった。しかし、関係者の堅実な努力により、小泉内閣時代の平成15年1月に、総理大臣主催による初めての「観光立国懇談会」が開催され、また、その年の通常国会における総理施政方針演説の中で「2010年に訪日外国人旅行者を倍増の1000万人に」との発言を契機に急速に観光立国が国の重要戦略として陽の目を見ることになった。即ち、その後、平成18年12月には、法律に初めて「立国」の文字が使われた「観光立国推進基本法」が制定され、平成19年1月1日から施行された。同年6月には「観光立国推進基本計画」が閣議決定され、さらに翌20年1月に、当時の福田総理が施政方針演説の中で「新たに観光庁を設置し、地方の自然や文化などを積極的に発信し、国内はもとより海外からの観光客を呼び込む取り組みを強化する」との発言により、同年4月に観光庁設置に係る「国土交通省設置法等の一部を改正する法律」が成立し、10月1日から観光庁がスタートした。

観光立国推進基本計画によると、今後5年間の計画期間として、平成22年までに、(1) 訪日外国人旅行者を1000万人に、(2) 日本人海外旅行者数を2000万人に、(3) 国内における観光旅行消費額を30兆円に、(4) 日本人国内観光旅行による一人当たりの宿泊数を年間4泊に、(5) 日本における国際会議の開催件数を平成23年までに5割以上（約250件）増やすなど、具体的な数値目標を掲げてスピーディかつ効率的に施策を実施することになっている。さらに、2020年には、インバウンド旅行者を2000万人へと倍増する新たな開国にも相当する社会改造目標を設定して、行動計画としている。

観光は、平和を基本として、人と人の交流、触れ合いにより、地域の真の発展、国際交流が期待されるものであり、その前提として、地域に生活する人々が真の仕合わせ感を楽しんでいることが大事なことである。

このことを十分踏まえて、国民に親しまれる開かれた新しい国家行政機関として、新観光ビジョンをスピーディに実行してゆく観光庁を心より期待したいものである。

観・光・人・国・記

新幹線函館への延伸に期待

道南と東北地方と結んで広域観光目指す



函館市長 西尾 正憲（にしお・まさのり）氏

1972年、京都大学文学部卒。亀田市に入り、函館市企画部長、助役を経て2006年12月退任。

07年4月、函館市長当選。1期目。

「函館は、気候は温暖だし住みよいところです。北海道といいますが、むしろ東北地方との結びつきが強いのです。そうおっしゃる西尾市長の目は、7年後に函館まで伸びてくる新幹線に期待をかける。

「本土から函館に来るには、いまは空路、鉄道、フェリーがありますが、一日当たりの輸送量は空路が2000人、全ての輸送機関を合計しても6000人程度にしかなりません。新幹線が通じると、それだけで8000人輸送能力が増えるのですから、可能性は倍増以上となります。」

「よく知られているイカをはじめとする海産物に恵まれ、函館山や五稜郭といった見どころ、世界三大夜景といわれる街並み、どれをとっても一級品です」と言う。

いま、新幹線延伸に備え『アクション・プログラム』作りに、民間人とともに取り組んでいる。

「函館の人は気候が温暖なせいか、あまりあくせすしません。ですが、これからの交流の時代には、それなりに対応していかないと取り残されますよ、と言い続けています。その効果は、出つつあるのです。『はこだてクリスマスファンタジー』もそうですし、五稜郭の堀を使った音楽祭も定着してきました。来年4月に開くことになっている『2009世界料理学会 in HAKODATE』の仕掛け人も、レストラン・パスクの深谷さんです。自治体だけの力では限界があります。民間人の知恵と力が観光推進につながるのです」と西尾市長。一面で紹介したイベントは12月1日から25日まで行われるが、もともと閑散期とされていた12月の函館観光に大きな効果をもたらした1998年には539万人の観光客が訪れたという。

また西尾市長が強調するのは、広域観光。その目は東北に向き、道南地方とも一体となった観光プログラムを打ち出す方針。具体的な数字目標は語っていないが、大幅な観光入り込み客の増加を期待していることは、間違いなさそう。

「新幹線効果を自分たちのものにするには、まずは函館を魅力ある都市にし、行ってみたい街にならなくてはならないと思います。各種のコンベンション函館開催にも力を入れます。そして、ご夫人同伴で、より多くの人たちが来て下さることを願ってい

ます」「と言っても、私たちはガラガラして『函館に来て下さい』と、叫ぶつもりはありません。世界経済、日本経済は冬の時代に入りそうですが、ここはじっくりと腰を据えてかかりたいと思います」と、先を見据えて語る西尾市長である。（加納）

函館の観光振興に一役買う

『丸仙旅館』の若女将

10月から11月にかけて開いたオンパクで大活躍していたのが、函館市湯の川温泉『丸仙旅館』の若女将・佐藤綾子さん（写真）。



オンパクとは、温泉泊覧会のことで、先進地・別府に学び佐藤さんが参加している『湯の川温泉旅館協同組合』が中心に始めて今年が4回目。函館空港から市内に向かう道筋にズラリ並ぶ20余のホテル・旅館が66にも上るプログラムを用意して、観光客だけでなく、函館市民や道南の人たちにも楽しんでもらおうという催しである。

もともと、湯の川温泉は道南地方では知られる温泉地だが、全国的な知名度は今一つだった。「全国的にPRする必要がありますが、その前に地元の人たちによく知ってもらい、愛していただくことが大切だと考え始めたのです」と佐藤さん。その仕掛けの一つが、オンパクの中心的なプログラムである「ゆのぶら」（湯の川ぶらり・つまみぐいめぐり）。11月1、2の両日、温泉宿ばかりでなく街の商店も参加して訪れる人たちに格安の食べ物、特産品、温泉入浴などを提供し、湯の川を楽しんでもらおうという狙い。佐藤さんは、ゆのぶら委員長、同広報委員長として、大忙しの日々だったという。オンパク、ゆのぶらは盛り上がったが、佐藤さんらは早くも第5回に向け頭の切り替え作業中らしい。

ここで、本業の旅館に目を向けよう。『丸仙旅館』の歴史は古いが、佐藤さんの祖母が経営を引き受けたのは昭和17年。当初の建物は、函館によく見られるシャレた洋館風だったが、老朽化が進み建て替えた。「あの雰囲気伝える旅館を目指したようですが、いま思うと一部を残しておけば良かった」と佐藤さん。ただ、伝統として残る源泉かけ流しは、今も健在。「湯の温度が高いので、その日の気温に合わせるように、お湯を風に当てたり湯量を調節したり全て手作業です。これが大変で、コンピューター制御の話もありますが、昔ながらの方法にこだわって続けています」とか。料理は、会席風ではなく厳選した地元の素材を活かした一品料理中心という。1泊15,000円くらいで、私でも泊まれそう。

若女将・佐藤さんの写真はプロ級だそうで、時間を捻り出しては愛機を握る。いつか、その個展を見たいと、思った。（加納）

〒042-0932 函館市湯川町3-10-3

電話 0318-57-1379 F A X 0138-5-1367



The report of Rikkyo activities.

高尾山ツアー

Nuggets Of Hospitality

立教支部長 麓 理沙

10.11、東京も秋の気配を感じ始めたころ、我々ホスト4名はベトナム人ゲスト1名を迎え高尾山へ行っ



てきました。紅葉にはまだまだ早い時期ですが、暑さも和らぎ大変過ごしやすいこの時期、体を動かすにはもってこいというわけです。当日は朝から曇りがちの中、いざ山に着くと太陽が顔を見せ始め、まさに登山日和となりました。

この日集まった5名はみな登山初心者ということもあり、登山開始早々続いた急な階段に体力を奪われたり山道での体温調節に苦労したりといろいろと戸惑うこともありましたが、少人数でのツアーだったためわいわいとおしゃべりしながら楽しく登ることができました。今回参加して下さったゲストさんは高尾山へは2回目とのことでしたが、前はケーブルカーでの登頂で自分の足で歩くのは初めてとのこと。またベトナムには四季がなく、高尾山で見た紅葉にとっても感動したと強くおっしゃっていました。

全8コースある登山道のうち、今回我々は稲荷山コースを登りました。このコースは全長約3km、およそ90分で山頂までたどり着きます。階段やつまづきやすい木の根が多いといった難点があるものの見晴らしがよい尾根を歩くため、景色はとてもよいです。最後に200段の階段を登り切ると、いよいよ山頂に到着です。山頂からは多くの山々とともに富士山もみることができました。またなんとといっても登り切った達成感を味わいながら食べるおにぎりは格別！さらにはハスカップを使ったソフトクリームも食べ、高尾の味も満喫しました。

帰りは全員満足感に浸りながらリフトに乗ってゆっくりと八王子の街並みを眺めながら下山しました。高尾山はミシュランの3つ星観光地に選ばれたということもあり、外国人観光客もよく知る地となっています。また新宿から1時間弱で広大な自然、澄んだ空気を味わえることもあり、ぜひともお勧めしたい場所の一つです。

帰りは全員満足感に浸りながらリフトに乗ってゆっくりと八王子の街並みを眺めながら下山しました。高尾山はミシュランの3つ星観光地に選ばれたということもあり、外国人観光客もよく知る地となっています。また新宿から1時間弱で広大な自然、澄んだ空気を味わえることもあり、ぜひともお勧めしたい場所の一つです。

「世界遺産物語」・・・

自由の女神像

JN会員 近藤 節夫

これほど値打ちに違いがあり、真偽において物議を醸すお騒がせの世界遺産も珍しい。下は下町界隈の飾り物から、上はニューヨーク・リバティ島にある元祖・自由の女神像まで実に多種多様である。日本国内にもニューヨークと同じ緯度、北緯40 40にあるというだけの理由で、「ふるさと創生資金」を投入し緯度に拘り、実物の四分の一規模に建てられた青森県おいらせ町の自由の女神像、そして東京お台場に置かれた「台場の女神像」がある。

この自由の女神像の原語名は「Statue of Liberty」(自由の像)で、どこにも「女神」という言葉は記されていない。正式名は「Liberty Enlightening the World」(世界を照らす自由)と呼ばれている。優しい女性像に対する日本人独特のこだわりから「女神」が付け加えられたようだが、この「女神」は日本人が想像するような優しい女性とは程遠く、むしろ逞しい女性像なのである。ちょうどルーヴル美術館に展示されているドラクロワの「民衆を率いる自由の女神」の女性のように、その志は気高く神々しい。右手には純金で作られた炎を擁するトーチを空高く掲げ、左手には独立記念日を刻印したアメリカ合衆国独立宣言書の銘板を抱え持っている。さらに足元には引きちぎられた鎖と足かせがあつて、何と女性はこれを踏みつけているのだ。あらゆる弾圧と抑圧からの解放と、人類が自由で平等であることを強く主張している、聞きしに勝る強い女性なのである。

この自由の女神像は自由と民主主義の象徴としてアメリカ独立100周年記念にフランスから贈られたものであることは広く知られている。マンハッタンの最南端バッテリー・パークから対岸のスタテン島へ頻繁にフェリーが運航され、その途中でリバティ島へも立ち寄ってくれる。だが、2001年のニューヨーク9.11テロ事件勃発以降、テロ警戒上の理由により女神像内部への立ち入りが許可されなくなってしまった。せっかく10階建てのビルに匹敵する女神像を見ながら、今は写真撮影だけで我慢となる。

この女神像の内部構造については誰しも興味を抱きがちであるが、筆者には苦い経験がある。この女神像内部は外観の優雅さとは似ても似つかぬ荒々しさと鉄パイプのジャングルなのである。エレベーターに乗って首の辺りで降り、後は展望台である頭頂部の王冠へ鉄製のハシゴをよじ昇る。このハシゴが意外にも曲者で、一步一步の歩幅が日本人には大き過ぎて辿り着いた時には、両腿部がつってしまって暫く歩けなかった経験がある。見学者を戸惑わせる不思議な世界遺産である。それでも王冠の窓から見た40年近く前のマンハッタンの摩天楼街は今も目に強く焼きついている。

「帆船海王丸」体験航海記

(財)日本海事センター 特別研究員 野村撰雄

本年10月末に、海王丸(海技教育財団所有、航海訓練所運航)が一般社会人向けに実施している体験航海(国内乗船研修)に参加する機会を得た。紙幅の都合から簡単ではあるが、その概要を紹介する。



今回の乗船研修は、10月27日に宮崎県細島港を出港し、30日に兵庫県神戸港に入港するという3泊4日のコース。一般公募による研修生は22名、16歳の高校生から60代まで年齢層は幅広く、いずれも海王丸及び体験乗船への並々ならぬ情熱を感じさせる方々が集まった。中には体験乗船5回目の方や、より小さな帆船「あこがれ」(大阪市所

有)との乗り比べをされているような方もいて、帆船ファン、海王丸ファンが多くいることを感じさせられた。また、乗船中の実習生(10月1日より5つの商船高等専門学校生82名が訓練中)の実際の船内生活を見ること、彼らと話をしてみることを楽しみにしていた方も多かった。小生もその1人であったが、食堂や娯楽室で居合わせた彼らの話を聞くと、繁華街で見かける若者と変わらぬ風貌でありながら、すでに働くことの自覚を強く持ち、将来に向けて一所懸命に安全運航の知識技術を学び取ろうとする姿勢を感じさせる者もいて、頼もしい印象であった。

研修生には常時2名の指導員がつき、個々の訓練・座学には船長ほか乗組員が指導にあたる。研修生の体験プログラムは実習生とは別個のものが用意されており、素人でも臆することなく実習訓練を体験できるよう十分な配慮がなされている。そこでは機関室見学から操帆作業まで体験できるが、たいいていの研修生がもっとも心待ちにしているのは登檣訓練(マスト登り)である。前回体験乗船時には荒天のためそれができなかったから、今回もう1度参加したという方もいたぐらいである。我々は穏やかな天候に恵まれ、2日目にメインマストのトップボード(海面約20m)まで、3日目にゲルンボード(同30m)まで登ることができ、船の大きさを体感するとともに、その高さで行われる展帆・畳帆作業の難しさに思いをめぐらした。

国枝佳明船長は我々の乗船式において「体験乗船を通じて海王丸を好きになってもらいたい」とおっしゃった。未来の船員とふれあい、周到に用意された実習訓練を体験し、さらに、大いなる使命をもって実習生に対峙する教官の眼差しを目の当たりにして、下船時には研修生の誰もが海王丸を好きになったはずである。一般人向けのこうした貴重な機会を捉えて、多くの方に海というもの、船というものを味わってもらい、海への理解が広まればと思う。

4年連続の旭山動物園

杉 行夫

2005年11月5日開催の「観光立国フォーラムin札幌」に合わせて、旭川の旭山動物園を訪れてきた。動物園に行くのは、ここ旭山だけである。今年は4回目になった。

今回、今までと最も違いを見せたのは正門前の有料駐車場の出現であった。10時30分開園に遅れること10分、緩やかな上り坂を行くと駐車場の誘導員が旗を振り、車を有料駐車場に導いている。無料駐車場は満車。駐車料金は500円だという。去年の経験から無料駐車場があるはずと、近くにいた園の職員らしい係員に聞くと、正門の裏の東口にある無料駐車場は開いているとのこと。すぐ払い戻しを受け、脱出。初めて訪れていたなら間違いなく有料駐車場に駐車したに違いない。

毎年10月の下旬から10日間ほど休園し、今年は11月1日が冬季営業の初日で、私は3日に訪れた。動物たちは久しぶりに入園者と触れ合うためかサービス精神旺盛のように感じた。虎・豹も始終動いているし、犀も動いている。白熊は餌を貰える「もぐもぐタイム」でも無いのに20分も泳ぎ、それも2匹一緒という豪華さであった



暖房のきいた部屋に居るチンパンジー・オラウータンとも最近生まれた子供が愛らしく人気を集めていた。また、蜘蛛ザルもガラス越しに格好をつけたり愛嬌を振りまく。

昨年12月に創られたレッサーパンダの吊り橋は、入園者の頭の上に架けられており、頻繁に渡って行く。

白いフクロウは3羽、枝に止まっていた。間じかに見るフクロウの貫禄には圧倒される。

本年6月新設の「オオカミの森」はまだ3頭しかおらず、昼間は寝ていたが、閉園間際の15時過ぎにようやく活動を始めた。これからの施設の充実が期待される。

というわけで、駐車場の悪い印象は退園時には消え去っていた。また訪れようと思う。



新年号への投稿のお願い

2009年新年号は、1月25日発行の予定です。2009年の観光への期待、提言、なんでも結構です。4~500字で、玉稿を寄せて下さい。

1月15日締切です。(編集長)

天守閣が黒塗りの「烏城」

城下には後樂園や旭川に掛る月見橋

JN協会参与 長宗我部 友親

岡山はなんといっても、桃太郎伝説の街である。JRの岡山駅を降りるとまず目につくのは桃太郎と猿と雉の姿である。



岡山駅前から、まっすぐのびる通りも「桃太郎通り」とも呼ぶらしい。その先には、岡山城の堀の役目も果たしている旭川があって、その川には月見橋がかかっている。

日本三大名園のひとつである後樂園もある。しかし、そこで奇異なのは岡山城の黒塗りである。なぜか岡山城の天守閣は黒く塗りつぶされている。それゆえに岡山城は「烏（う）城」とも呼ばれている。

備中、美作にその勢力をのばしていた宇喜多秀家が、岡山城は築城した。秀家の築城以降は徳川時代に城主となった池田氏が改修工事をしている。

城は天主閣横に塩蔵を置く、関ヶ原以前の様式で造られていて、松本城や会津城と並ぶ。



宇喜多秀家は古い石山城の地を利用して、その大改築に取り掛かった。石垣は自然の石を削らずにそのまま積み上げる野積み方式をとっている。旭川は、その川の流れを変えるほどに、大規模な普請を施した結果、本丸を囲むように蛇行することになった。

天守閣は、三層六重になっていて、織田信長の安土城をまねたと思われる。通常、城主は天守閣の近くに、別に御殿を建てて、そこに住むが、この城の天守閣の中には「城主の間」があり、珍しい造りとなっている。宇喜多秀家の、心の持ち方の一端が分かるような気がする。

宇喜多秀家は、関ヶ原の戦いで徳川家康に敵対したために、結局八丈島に流されて、そこで一生を終わっている。関ヶ原の戦いの後岡山城に入ったのは、小笠原秀秋であった。

「観光立国セミナーの盛況続く」

JN協会は、全国各地でのシンポジウム開催と並行して、ほぼ毎月のように会員を対象にした「観光立国セミナー」を東京・麹町の海事センターで開催している。

2004年からは「観光立国セミナー」としてスタート、今年11月で36回目。会を追うごとに参加者が増え50人近くに膨れ上がるケースも。「もっと広い会場が必要かな」と幹事の杉さんの嬉しい悲鳴。

以下は、2008年に入ってから講師と演題一覧。

過去の内容は、JN協会の監事である前さんがまとめ、製本しているので、必要な方はJN協会事務局へ、どうぞ。

第29回 平成20年2月12日

「スイス連邦の観光政策の推移と今後の展望」
鈴木光子 東京成徳短期大学非常勤講師・元スイス政府観光局局長代行

第30回 平成20年4月11日

「小田急電鉄・自然との共生活動」
国安俊夫 小田急電鉄 法務・環境統括室プロジェクトマネージャー

第31回 平成20年5月12日

「グリーン・ツーリズムから見た観光立国」
齋藤章一 財団法人 都市農山漁村交流活性化機構 専務理事

第32回 平成20年6月27日

「英国人に来ていただくためには」
長谷川洋子 英国センター主宰者・元英国政府観光庁マーケティングマネージャー

第33回 平成20年7月11日

「観光の国ドイツ」
坂田史男 元ドイツ観光局マーケティング部長

第34回 平成20年8月8日

「キューバを3週間旅して」
杉行夫 JAPAN NOW 観光情報協会 事務局次長

第35回 平成20年10月10日

「『ミシュラン ガイド ジャпон』について」
唐津康夫 元JTB取締役欧州支配人

第36回 平成20年11月19日

「格安航空会社（LCC）の現状」
大手航空会社の視点から
大島慎子 筑波学院大学 情報コミュニケーション学部教授

江戸城再建を目指す会

「会員総数1000名突破を祝う会」開く

11月7日、私たちの会の会員数1000名突破を祝い、且つこの草の根運動の輪を更に広げようという「祝う会」が、創設されたばかりの観光庁、千代田区議会、並びに千代田区内の民間諸団体など、各方面からのご来賓をお迎えし、六本木ヒルズハリウッド・ビューティー・プラザ5階の大ホールで開催されました。約240名もの方々が参加



され、今回初めて紹介された(株)森ビル提供の「江戸城天守閣のある東京(千分の1模型写真) = 左」をイメージ

しながら、第1部のフランソワーズ・モレシャン女史の記念講演で日本文化の素晴らしさを再認識し、第2部のパネルディスカッションでは、私たちの運動の輪をどのように広げるかを考えました。第3部の懇親会場は、私たちの会員による「貝合わせ」、手作りペン、出版本、絵画の展覧や、出版社とNPO団体の出展、並びに当会の江戸城天守閣模型の展覧などで彩られ、参加者は手品や獅子踊りを楽しみながら参加者同士の懇親を深めることが出来ました。

私たちの会は、「江戸城を再建して、この国を夢と希望、自信と誇りを持てる国にしていきたい」との志を持つ民間有志によって、2004年12月任意団体として活動を開始し、2006年3月に東京都認証のNPO法人となりました。その時の会員数は約300名でした。江戸城再建という壮大な夢を実現する力はこれを願う人の数です。これまで、江戸城と江戸時代に関わる歴史や伝統、文化を楽しく勉強しながら、国民各界、各層の理解と支援の輪を拡げる活動を続けました結果、この2008年10月、会員総数が1000名を突破しました。

モレシャン女史は記念講演で、「フランス人は本当にフランスが好きで、自分のお母さんもそうであったように、フランスの大人は子供にフランスの文化や歴史を伝えるのが好き。だから、(フランスの文化や歴史の象徴でもある)ルーブル美術館やヴェルサイユ宮殿を大切に保存します」と語られました。そのモレシャン女史が40年間の日本滞在を踏まえ、「日本の伝統と文化、とりわけ美意識は世界で一番かもしれない。ところがこの前の敗戦で、平均的日本人は全てアメリカ礼賛になってしまった。私は『日本のお蔭で』、日本人の素晴らしい心のもち様、考え方、立ち居振る舞

い方を学びました。今の日本の若者の頭と心にわび(侘び)、さび(寂)を入れないと本当の日本人になれない。自分の国の文化と歴史の中にルーツを持たない人は浮き草であり、根のない木と同じで、嵐の時は倒れてしまう。(日本の歴史と文化を後世に伝える)江戸城再建は素晴らしい、私もメンバーになりたいし、お手伝いしたい」と熱っぽく語られました。

私たちの会は江戸城再建を実現するため、会員数を更に三千、五千、一万人と増やし、現在の草の根を国民運動に発展させていきます。JAPAN NOWのメンバーの方々がお一人が多く、私たちの輪に参加されることを期待いたします。

私たちの会そのものと入会方法につきましては、会のホームページ<http://npo-edojo.org>に紹介させていただいておりますので、是非ご訪問ください。

NPO法人「江戸城再建を目指す会」

「停年オヤジの海外武者修行」

JN協会理事の近藤氏が出版

JN協会の理事で日本ペンクラブの会員でもある近藤節夫氏が11月、「停年オヤジの海外武者修行」(早稲田出版、1365円)なる本を出版した。

旅行業務に精通している同氏は、現役時代からお客を同伴して海外各国を訪れた経験が豊富。小田実氏にアコガれ、学生時代に東南アジアを貧乏旅行したことが、彼の人生を決めたともいえる。



“臨場感”という言葉重視している彼の著作には、まさに臨場した人でなくては書けない内容が盛り込まれている。

前作も「新・現代海外武者修行のすすめ」と改題し、12月中旬に文芸社から再版されるという(1680円)。

執筆活動は、本に加え本紙のみならず様々な機関誌に寄稿しており、自分のホームページも充実させている。JN紙では「COLUMN」「世界遺産物語」を連載している。

講演活動も活発にこなしており、11月8日には韓国の束草(ソク・チョ)に講師として招かれた。38度線の北に位置するとあって、中国人も含め満員の聴衆を集めたという。

この欄で、個人を取り上げるのは異例ようだが近藤氏が現役時代の経験を活かし、さらに前進を続けている姿は、私たちシルバー世代の星と思ったので、あえて紹介させていただいた。(加納)

成田「ゆめ牧場」の鉄道に 24名の外人客が訪れた

杉 行夫

去る10月25日、私が所属する成田「ゆめ牧場・羅須地人鉄道協会」の鉄道に、24名の外人客がきた。世界の鉄道を見て歩く「Trains Unlimited Tours」が主催する、少々アブノーマルな日本人鉄道マニアが企画した15泊16日の、日本の鉄道見学旅行の一齣として訪れたのである。東京成田空港集合、参加者はアメリカ人のほか、スイス3、英国、オーストラリア各1名の人々、女性は4人。旅程を紹介しよう。

10月18日(土) 東京成田空港 午後集合
「ヒルトン成田」でウェルカムディナー・泊

19日(日) 会津若松 「SLばんえつ物語」乗車・撮影 「メトロポリタン仙台」泊

20日(月) 小牛田 「石巻線C11試運転」撮影、利府「東北新幹線車両基地」見学、青函トンネル通過。「ロワジールホテル函館」泊

21日(火) 函館どっく前「函館市電ハイカラ号」貸切乗車、「函館市電車庫」見学。竜飛海底、「竜飛海底駅・青函トンネル記念館」見学「ロワジールホテル函館」泊

22日(水) 静岡「ホテルアソシア」泊

23日(木) 名鉄名古屋「名鉄・パノラマカー」乗車・撮影、犬山遊園「名鉄 モノレール」乗車博物館明治村「蒸気機関車・旧京都市電」乗車・撮影。静岡「ホテルアソシア」泊

24日(金) 金谷「大井川鉄道」乗車・撮影千頭 「大井川アプト鉄道」乗車・撮影東京「メトロポリタン丸の内」泊

25日(土) 銚子「銚子電鉄」見学・乗車・撮影滑川「成田・ゆめ牧場 蒸気機関車」乗車・撮影「チサンホテル&コンファレンスセンター新潟」泊

28日(火) 広島「広島電鉄」乗車江波「広島電鉄車庫」見学、博多南「新幹線車庫」(新幹線0系)見学

門司港「九州鉄道記念館」見学

「ホテルグランヴィア岡山」泊

29日(水) 若桜「若桜鉄道・C12」見学電鉄出雲市 「一畑電鉄・お座敷電車」貸切乗車車中で宴会。「ホテルグランヴィア岡山」泊

30日(木) 高松築港 「高松琴平電鉄・300+23形電車」貸切乗車。

仏生山「高松琴平電鉄車庫」見学、松山「伊予鉄道・坊ちゃん列車」乗車

「ホテル京阪京都」(新幹線の見える部屋)泊

31日(金) 天王寺「阪堺電気軌道」貸切乗車安孫子町 「阪堺電気軌道車庫」見学

嵯峨嵐山 「トロッコ列車」乗車

四条大宮 「梅小路蒸気機関車館」見学

東京「メトロポリタン丸の内」泊

11月1日(土) 熊谷「秩父鉄道 パレオ・エクスプレス」乗車、鉄道博物館。大宮「鉄道博物館」見学。東京「メトロポリタン丸の内」泊

2日(日)

解散または都電荒川線乗車

というもので、ホテルへのチェックインは早い日で19:10、遅い日は22:30というハードスケジュール。列車に乗るためにわざわざ遠くで宿泊するような印象も受けた。参加費はSingle roomで総額\$5,190。JRについてはJRパスを利用(14日間通用:45,000円)、日本人だとJRだけで25万円を超える運賃・料金だという。

成田では、米国カリフォルニア州・ナパから来た40歳ぐらいの男性が、我々の蒸気機関車2両を運転しご機嫌であったので、牧場宛良いワインを送ってくれるように頼んだ。



日本鉄道旅行の面々

26日(日) 高崎「奥利根」乗車、「上信電鉄」見学、「ホテルグランヴィア岡山」泊

27日(月) 新山口「やまぐち号」乗車「ホテルグランヴィア岡山」泊

リニア新幹線は南アルプスルート?

JN協会は2008年3月、名古屋市で「大中部圏の観光・経済発展」というシンポジウムを開く。ここで、JR東海の須田寛・相談役(JN協会中部支部長)が、名古屋市・東海圏の将来について、東京ー名古屋を40分で結ぶリニア中央新幹線の建設について、詳細を語る予定。

JR東海単独で、5兆1000億円の巨費を投じて建設し、2025年に開業の運びとなる。南アルプスをトンネルで貫くルートが採用される公算大。

須田氏によると、そのころには東海道新幹線のダイヤが満杯状況になることや、東海道新幹線の保守作業も考えるあわせると、リニア中央新幹線は不可欠という。

NEW SPOT

in japan

観光庁発足



観光庁が10月1日に国土交通省の外局として発足した。省内6課79人を改組し8課103人に強化。うち6課は【総務課】基本政策立案や広報【観光産業課】産業の発達改善調整【国際観光政策課】出入国簡素化など調整、国際機関交渉【国際交流推進課】ビジットジャパン推進、二国間交流拡大、国際会議誘致開催など【観光地域振興課】国際競争力高める観光地形成【観光資源課】観光資源の保全育成開発、人材育成。さらに【参事官】2人が課の扱いで観光経済(調査統計、観光白書)、旅行振興を担当する。

独立行政法人の国際観光振興機構(通称：日本政府観光局)を所管し、傘下の公益法人は社団19、財団9にのぼる = 別表。発足に先立ち4月から「観光地域づくり相談窓口」を省内に設け、地方にも各運輸局などに窓口を開設した。

「開かれた観光庁」を標榜し行動憲章5カ条をカードにして職員が常時携行する。その第2条は「タテ割りに陥ることなく、無駄を省いてスピード感を持ち、迅速に成果を出します」とうたい、裏を返すと従来行政の反省にも見える。

観光立国へ5つの目標を掲げる。訪日外国人旅行者を2007年の800万人強から2010年に1,000万へ増やし、日本人の海外旅行者1700万人強を2,000万に。全国の観光旅行消費額を30兆円に、国際会議の日本開催件数を5割増し、など。ハードルは低くないが、集約された行政手腕に期待は大きい。

(写真・文 林 莊祐)

観光庁メルマガ

観光庁は一般向けに無料のメールマガジンを配信している。配信登録者へ最新の観光行政情報を、原則として発表当日に配信するほか、観光関係省庁の発表情報も随時配信する。当面1週1~3本程度の配信で、観光庁のホームページ

<http://www.mlit.go.jp/kankocho>から、だれでも登録できる。



観光庁の所管法人一覧

10月1日に発足した観光庁が所管する独立行政法人、公益法人は次の通り。類似名称の法人が少ないが、それぞれの違いや役割、事業内容はここでは触れない。カッコ内は、理事長以外は会長名、設立年順。2008年11月現在。

【独立行政法人】

国際観光振興機構[日本政府観光局 = JNTO]

(理事長：間宮 忠敏、2003年)

【社団法人】

日本温泉協会 (滝 多賀男、1931年)

日本観光通訳協会 (船山 龍二、1940年)

日本ホテル協会 (中村 裕、1941年)

国際観光旅館連盟 (佐藤 義正、1953年)

日本観光旅館連盟 (佐久間 進、1953年)

国際観光施設協会 (村尾 成文、1957年)

国際観光日本レストラン協会 (津田 暁夫、1959年)

日本旅行業協会 (金井 耿、1963年)

日本観光協会 (中村 徹、1964年)

全国旅行業協会 (二階 俊博、1966年)

全国農協観光協会 (遠藤 芳雄、1967年)

日本オート・キャンプ協会 (長谷川 純三、1969年)

全日本シティホテル連盟 (清水 信夫、1974年)

日本民宿協会 (高木 一康、1978年)

日本エコノミ観光旅館連盟 (小林 照雄、1980年)

日本添乗サービス協会 (山田 隆英、1986年)

日本ホテルパーメンズ協会 (渡邊 一也、1989年)

日本海外ツアーオペレーター協会

(安達要吉、1991年)

日本ツーリズム産業団体連合会(船山龍二、2001年)

【財団法人】

日本交通公社 (新倉 武一、1942年)

日本修学旅行協会 (阿部 充夫、1952年)

日本ナショナルトラスト (大塚 陸毅、1968年)

日本ホテル教育センター (中村 裕、1976年)

江頭ホスピタリティ事業振興財団

理事長：四島 司、1982年)

日中青年旅行財団 (石月 昭二、1987年)

国際観光サービスセンター (向山 秀昭、1990年)

地域伝統芸能活用センター (中村 徹、1992年)

アジア太平洋観光交流センター(野村明雄、1995年)

「観光立国と私の提言」

観光もファッションと同じ
知恵を絞ること、と寺田社長

JN会員 加藤 和子



若い女性向けのバッグやアクセサリを展開するサマンサタバサジャパンリミテッドの寺田和正社長にお話をお聞きした。2005年には東証マザーズへの上場を果たしたが、社長はまだ40歳台前半。お会いしたときはカジュアルな服装で実年齢以上に若く見えた。

同社の製品は、ハートやリボンのモチーフを使い、ひと目でそれとわかるものが多い。広告宣伝にビヨンセや蛭原友里など知名度の高いタレントを使っているのも特徴だ。青山の本社には、ファッションナブルな女性がさっそうと行き交っている。平均年齢は23歳だという。

国内店舗数は243店舗、海外はまだ1店舗だが、いま社長の視線は成長が期待できる「外」を向いている。一方、11月1日には、世界中から選び抜いたブランドを集めた初のセレクト・ショップを銀座にオープンした。「銀座は東京の銀座ではない、世界の銀座」と、世界中から買い物客が訪れる店を目指す。

そんな寺田社長に、観光や町おこしへの提言をお願いすると、「ファッションも観光も同じ、知恵を絞ること」という答えが返ってきた。夏に故郷の岡

山県福山市に帰ったとき、地元の鞆の浦を舞台にした宮崎アニメ「崖の上のポニョ」人気に便乗したイベントなどを見て、第三者が流行らせたものに安易に頼ることへの違和感を覚えたという。「もっと地元にあるもの、たとえば福山城に一泊して殿様気分を味わってもらうなんていう企画が面白いと思う。もしそういう企画があったら一泊十万円でも泊まってみよう」と笑う。

学生時代、カナダに留学した寺田社長は、日本を研究する海外の学者や学生が減少するなど日本への関心が薄れていることを懸念している。一方、日本の若者が、海外への興味を失っていることも憂えている。「今の若い人には、『留学して英語を覚えて何になるんだ』という人が増えている」という。こうした若者の内向きな思考に日本の「国力の衰え」を感じている。

寺田社長は、日本の観光もそうした状況を反映して、海外に目が向いていない、海外からの観光客を呼び込もうという努力が足りないという。「日本のサービスやホスピタリティは、うまく『ブランド』として育てていけば、外国人にとって魅力的なものになる」と語る。大げさなことではなく、ちょっとした工夫や知恵で、海外の観光客は増やせると考えている。

若い経営者を見ていると、この国も変わるかもしれないという気がしてくる。

C O L U M N

トビウオは鳥類か？

つい最近NHKテレビが2度までも「トビウオ」特集番組を放映した。今なぜ「トビウオ」なのか？NHKによれば、今年5月鹿児島沖でトビウオが尾びれをたたきながら水面を45秒も飛行し続けた映像は過去最長なのだという。

このトビウオはわれわれの人智や想像を超えた曲芸をやったのける。NHKの映像は、魚でありながら、空中を「飛ぶ」から、「飛び続ける」特異な魚のイメージを訴えた。その飛ぶ様子を空陸多彩な角度から撮影し見せてくれたのである。鳴り物入りで紹介しようとするNHKの意図は、トビウオが集団となって飛翔する映像だと期待を抱かせた。しかし、飛行距離はともかく、番組では残念ながら数匹のトビウオが長く、遠くへ飛ぶ姿を見せてくれただけに過ぎなかった。これに似たシーンは、見ようと思えば屋久島近海で船上からだって見ることができる。これでは「想像を絶する」トビウオの曲芸とは言えない。

トビウオの曲芸とは、トビウオが数十尾の大集団となって海中から空へ飛び出し旋回して、海中へ飛び込み、再び空へ一団となって舞い上がり、その旋回する光景を何度も繰り返すことである。これこそ魚ではなく鳥の群れである。正にトビウオの曲芸と呼んでもよい。どうしてNHKはトビウオにあれほど接近しながら、トビウオの「お宝的な」鳥のシーンを捕えられなかったのか。答は簡単である。荒れ狂う大波の中で決死的な撮影をしなかったからである。

たった一度だけぞっとする体験の中で、トビウオの曲芸を見た。30年ほど前大荒れとなった中部太平洋の外洋、ペリリュー島からアンガウル島へ小さなスピードボートで向かった時だった。木の葉のように揺られながら逆巻く大荒波の中で驚愕と恐怖を味わった。その眼前に鳥の飛来があった。何とこれこそトビウオの躍動だった。群れとなって消えては現れ、また消える。とても魚のイメージではなかった。まるで幻想を見ているようだった。転覆せんばかりの大波頭の直下でなければ、とてもトビウオは鳥となってくれない。だが、もう一度見たいと思っても、命からがらの体験はもうごめんた。(近藤)

お得な情報

「日本で見つけた 世界おいしい物語」

オスマン宮廷料理 ブルガス アダ

数年前に中央道の飯田インターチェンジの付近、いわゆるアップロードでトルコ料理の店をみつけた。これがブルガス アダで、トルコ料理の店として知る人ぞ知る隠れ家的な雰囲気であった。

この店が今年の夏、東京の麻布十番で開店した。イスタンブールの彫刻家の家に生まれたオーナーシェフのデイキメン・メフメット氏が日本人の奥様の故郷である飯田市で、トルコの家料理としてスープやケバブを中心にレストランを開業した。

その後、東京に進出することにし、東京では14世紀から16世紀にアジア、ヨーロッパにまたがり大繁栄したオスマン帝国の宮廷料理中心の店として古代のレシピの復活という大ロマンを実現することにしたのである。

家庭料理と異なる点は、盛りつけや調理に手間ひまかけて鮮やかな色彩と贅沢な雰囲気を再現していることである。例えば車エビをスズキで巻いたオープン焼きに卵黄とレモンソースにオレガノとタイムの香辛料を混ぜるなど、元祖フランス料理のような味わいである。

ソースの甘みも砂糖ではなく果物の甘味を使用する。これが15世紀のレシピだそうで、3,990円。他にも焼きリンゴに野菜や牛ヒレ肉の細かくしたものを詰めてシナモンソースをかけたもの2,625円など、見た目も楽しいアラカルトが楽しめる。

味付けはあっさりしており、トルコ料理が串焼き肉だという印象を覆す店である。

住所は港区麻布十番3-7-4 電話 03-3769-0606
営業時間は18:00-24:00。 (大島 慎子)

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいた「JAPAN NOW」誌は、日英全文対訳で学校教材としてもますます高く評価されています。

4月に完成した2008-2009年度版は、日本全国のホテル110館、55,000室の客室に常備されています。



日本文化の再発見を通じて新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちによって生き生きと伝えることが、「JAPAN NOW」誌の編集方針です。2008-2009年度版は150年間にわたり日本の国際交流の窓口であり続けた横浜の過去と現在を紹介する「横浜150年」といまでも日常の生活とともにある神仏の世界を通じて日本人のこころ

のあり方にせまる「素顔の神々」という2つの特集を軸に構成されています。また、巻頭インタビューは、文学者の河野多恵子氏をはじめとしたバラエティあふれるラインアップとなりました。

1部2000円(送料別)で購入できます。お問い合わせは(株)ジャパン・ナウへ。電話・FAX 03-3536-1751

道の駅「たるみず」鹿児島

季節は、秋から冬へ。当協会のある代々木でも11月に入り気温は14~5度の日もありブルブル。

クリスマスのイルミネーションも始まり冬の装いも一段と進んでいる。それでも陽射しがあれば陽だまりは春のようでほっとするが、陽射しが望めないビルの谷間の当ビルは外の方が暖かい日がある。11月の朝方、今年初めてであろうと思う暖房のスイッチをスタッフが入れたがどうにも温まらない。設定温度は25度!?が、良~く見ると冷房の表示!一気に季節は進んでしまったのである。季節の変わり目は用心用心。

さて、道の駅で少し暖かい話題を!



鹿児島県垂水市の国道220号線錦江湾の海岸線沿いにある「道の駅たるみず」。

100台はある駐車スペース。レストラン、農水産物販売、道路情報など、道の駅の役割を果たしている。中でも、イチオシは温泉施設「湯っ足り館」。お湯は天然ラドン温泉でラドン含有量34倍。「弱放射能泉」として注目を集め湯船から錦江湾越しに見える桜島の眺め、特に沈む夕陽は絶景でドライバーの疲れを癒してくれる。

露天風呂、サウナもあり、入浴料は大人330円。小学生以下180円。予約制だが、1時間1000円で家族風呂もある。利用時間は午前10時から午後9時まで。

また、気軽に利用できる「足湯」は無料。長さ全長60メートルは日本一!でちょっとした名物になっている。

利用時間は、午前10時から日没まで。

問い合わせ電話: 0334-34-2237

(堤 りり)

【会員募集】

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)

東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階

JAPANNOW観光情報協会(電話03-5304-9500)へご連絡ください。

会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して!!

観光情報紙2009年新年号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400~500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2009年1月25日。締め切りは1月15日。

NPOから提案します

誤用から始まった観光(2)

高崎経済大学観光政策学科教授 寺前 秀一

観光丸の命名が観光という用語の始まりであったという認識がこれまで通説であった。ところが観光という用語は幕末に日本人が造語したものではなく観光丸よりも少なくとも三百四十年前には観光の用例があり、頼山陽も寛政九年に使用していることを上田卓爾名古屋外国語大学教授が明らかにした。咸臨丸、観光丸の語源はいずれも易経にあるとされる。確かに咸臨丸については易経の「臨」の爻辞に咸臨という語が直接現れているが、観光は易経の「觀」の卦辞にも爻辞にも存在していない。従って上田教授は「観光とは易経から抜き出したもので、幕末に日本で作り出された」とするこれまでの通説は根拠が薄いとし、語源は易経に有るものの、観光という用語は江戸時代に広く読まれていた春秋左氏伝から発想されたとする。このことが(財)アジア太平洋観光交流センター入選論文で展開されたが、同論文は第二席にしか選定されなかった。白幡洋三

郎氏は、その理由を「論証の手続きなどに甘さが見られる、観光学論文としての意図が鮮明でない」としたが、この判断は、「観光」の語源の誤った説明を正すひとつの機会を奪ってしまった。

観光の誤用の原因は「觀」を「仰ぎ見る」「しめす」の二通りの解釈があることによる。しかし、占筮を用いる「易」の仕組を理解すれば、「觀国之光」の「觀」の意味は、六四(大臣の位)が九五(剛健中正の徳ある王者)を「仰ぎ見る」ということにしかならないのであろう。

戦前外客誘致を指したものである観光が、遊覧、巡覧、周遊が集約されて観光に変わるのは1950年以降である。1950年に一般乗合旅客自動車及び一般貸切旅客自動車の事業免許条件が大幅に緩和されたが「観光事業の重要性に名をかり、不健全な遊覧、行楽に貴重な燃料を消費しない」という条件がつけられた。このことは社名に観光の文字を冠したバス会社が数多く設立されたことが背景にあるとされる。観光の意味が完全に変化している。

イタリア通信 その7 -ミラノ観光案内所

多彩な歴史の共存する「ミラノ観光案内所」

ミラノのシンボル、ドゥオーモを正面に見て左側、地下の「旧コピアンキ・ビル」に「ミラノ観光案内所」が移転して1年以上が経過した。毎日、大勢の観光客が訪れるこの「旧コピアンキ・ビル」、実は大変興味深い歴史を持つ場所である。



もともとは、ポーロニヤの実業家コピアンキ氏が1924年、ドゥオーモ広場に面する地下空間に建設した「パブリック・バス・ハウス」で、バス、シャワー、マニキュア、調髪、アイロン室などの身だしなみに役立つサービス、さらには列車や劇場のチケット販売所、電話、読書室などを一

つの建物に集めたもの。当時の「ニュービジネス」は劇的な大成功を収め、イタリア主要都市すべてに同様の施設をオープンさせたという。この歴史的建物を、豪華なオリジナル素材を用いて極めて忠実に全面改修したのが現在の観光オフィスというわけだ。

話はそれで終わらない。この改修工事のさなか、なんと帝政ローマ時代の遺跡がこの場所で見

つかってしまったのである。そのため、観光オフィスの中にこの遺跡を全面ガラス張りで見せる展示スペースが生まれることになった。さらに、今年4月、ミラノ国際家具サロネの際には、有名デザイナーによるモダンなインスタレーションのほどこされた新スペース「アーバン・サロン」が観光オフィス内に誕生した。イベントにも使われるし、観光客や市民がちょっと休憩する格好の場所となっている。

ミラノの中心部は第二次大戦の爆撃によって歴史的建物の多くが破壊された。したがってローマやフィレンツェなど主要観光都市と比べ、ミラノには町の「歴史」の見える場所は多くない。そんな中で、古代ローマ遺跡からリバティとデコの建築様式、さらに現代デザインの共存するこの地下の建物「ミラノ観光案内所」はなんとユニークな存在となっている。

(写真は「ミラノ観光案内所」への地下入口)

ミラノを仕事場にイタリア旅行情報サイト (www.japanitalytravel.com) を運営するほか、日伊間のビジネスや観光PRのコンサルタントやコーディネートをやっている。この欄ではイタリア各地の観光や地域の話題を紹介してゆきたい。

JAPANITALY.COM社 代表取締役 大島悦子

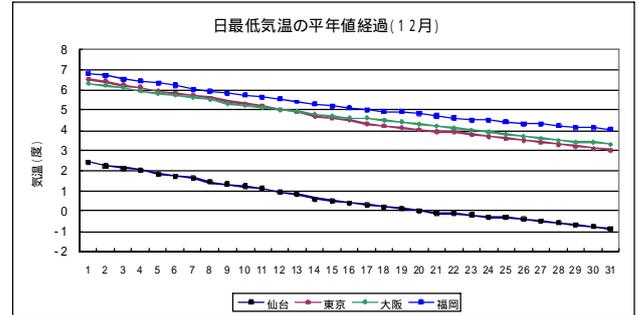
気温の低下

これからの時期は、大陸に高気圧、千島列島方面に低気圧がある西高東低の冬型の気圧配置になることが多くなります。そして上空に寒気が入ってくると、気温の低下も顕著になります。朝晩は暖房が欲しく、食べるものも鍋料理などの温かいものが好まれるようです。

図には平年の12月の日最低気温の経過を示しています。平年では12月はじめの日最低気温は東京、大阪、福岡は6度台、仙台では2度台と冷えます、これが12月末ともなると、東京、大阪は3度台、福岡は4度台と月はじめより3から4度位低くなります。仙台でも気温の低下は著しく、年末は氷点下1度位と冷え込みます。年により変動もありますが、東京の12月の日最低気温の1位は氷点下6度8分（1880年12月29日）、福岡では氷点下5度4分（1917年12月28日）と平年より10度位も低い値です。

年末に向けサラリーマンは挨拶回り、主婦は大掃除と忙しくなります。気温の低下に負けず乗り切りたいものですね。また、観光や仕事などで峠越えのドライバーの方は冬装備を忘れずに。雪道では急発進、急ブレーキ、急ハンドルなど「急」のつく運転は危険です。十分注意し安全に目的地に着きたいものです。

日本気象協会 金野 雅之



会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)

- 名誉顧問 : 松山善三(映画監督)
 理事長 : 松尾道彦(日本海事センター会長、前日本鉄道建設公団総裁)
 顧問 : 丹羽晟(前理事長、日本空港ビルデング顧問)
 副理事長 : 白澤照雄(JN協会事務局長)、岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(株)JALUX特別顧問、大島慎子(筑波学院大学教授)、小竹直隆(元JTB専務)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)、丸山博(元国土交通審議官)
 支部長 : 片山文彦(新宿)、魚住隆彰(北陸)、麓理沙(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本真一(北海道)、梅原利之(四国)、丸森仲吾(東北)、大田哲哉(中国)

【団体会員】(2008年11月25日現在)

[有] 青葉、(株)朝日ネット、(株)アドバン、(株)アドルックス、荒井建設(株)、アソデス電気(株)、安藤建設(株)、イ-エムティ(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、富山県射水市、(株)井六園ワールド、岩田地崎建設(株)、(株)HKエックス、(株)エイブルシステムズ、NPO「江戸城再建を目指す会」、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚ハレジ、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アドバンス(株)、(株)サマンサタバサジャパンリミテッド、三協立山アルミ(株)、(株)三普旅行社、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、(株)センインターナショナル、常磐興産ビーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、静和堂竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、ハ-キングプロ(株)、セントラルリングシステム(株)、(株)グアイ-コンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)大成ロテック(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、ティーシートレーディング(株)東京支店、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベーター(株)、東北電力(株)、トヨカネツリソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベーター(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、(財)日本ホテル教育センター、(株)キューテック、ネスレ日本(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、(株)ハ-ロックジャパンリミテッド、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、フラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、日本ホテル(株)、前田建設工業(株)、(株)ホテルリックス、マイナミホールディングス(株)、(株)まるまんフィオーレ、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲ-ネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

JAPAN NOW

観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13
 小田急代々木ビル3F
 電話 03(5304)9500
 FAX 03(5304)5632
 E-mail info@japannow.org
 Home page http://www.japannow.org

発行人：白澤照雄(JN協会事務局長)
 編集長：加納 隆(JN協会理事)

発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、
 地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

JN情報紙が、今月で60号を数えた。ほぼ8年間、原則として2か月ごとの発行だが、臨時号もカウントしているので60回目となる。

まったくの手作りの新聞。取材、執筆、編集、印刷、折り、発送まで、事務局のメンバーでこなしている。従って、発行経費は印刷機の償却費、インク代、紙代、郵送料のみとなり、印刷屋の商売あがったりの状況だ。

まず、原稿料も出せないのに、毎回書いて下さる日本気象協会、長宗我部、林、近藤、杉、堤、大島慎子、大島悦子、竹内のみなさんに感謝申し上げたい。また、校閲に抜群の力を発揮してくれる前さん、印刷や製本の中心になってくれている杉、堤(前、河村さんも)さんや発送を一手に引き受けている杉さん。本当にありがとう。(加納)